

授業改善推進プラン

第6学年

	指導方法の課題分析	目指す授業の改善計画	備考
国語	<p>☆目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことの正答率が11.9%で、東京都28.3%、全国28.8%に対して大幅に低いことから、問われていることを正確に捉える指導が必要である。</p> <p>☆文中で正しい漢字を書く正答率が16.9%で、東京都39.8%、全国35.6%に対して大幅に低いことから、学年別漢字配当表に示されている漢字の読み書きを定着させる必要がある。</p> <p>○話し手の伝えたいことの内容を理解して聞く必要がある。</p> <p>○語彙の数を増やしていく必要がある。</p>	<p>☆朝学習や宿題で読み取りの問題を行ったり、認知トレーニングなどを行ったりして、目的や意図をつかんで自分の考えを整理できる学習を増やす。</p> <p>☆日本漢字能力検定を参考にして松中漢字検定を行い、小学校で習う漢字の読み書きを定着させる。</p> <p>○読み取ったことを基に根拠をはっきりさせてまとめたり、説明したりさせる。</p> <p>○漢字の習得を目指すために、下学年の漢字の小テストを定期的に行う。</p> <p>○読書活動を充実させ、読んだ本を記録したり、簡単な感想文を書かせるなどの学習を増やす。</p> <p>○言葉の意味調べなど辞書を使う活動を意識して多く取り入れて言語活動を工夫する。</p>	<p>「☆」は、全国学力・学習状況調査の結果から分析した課題と改善計画</p> <p>○常に考えながら読んだり、聞いたりする。</p> <p>○話に注目させて注意深く聞くことを習慣づける。</p>
社会	<p>○学習内容に対する興味・関心は高いが、学習したことを知識として定着していくことが難しく、知識理解へとつなげるように指導方法を工夫する必要がある。</p> <p>○必要な情報を取り出す力を身に付けさせる。</p>	<p>○映像や図版、実物などの資料を有効に活用して、興味・関心を引き出し、理解したことの定着を図る。</p> <p>○学んだことを内容や構成、表現を工夫して新聞などにまとめさせることで、理解の更なる充実を図る。</p>	<p>○資料の開発と活用</p> <p>○地域の人材の活用</p>
算数	<p>☆減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめるなどようになるかを記述する問題での正答率が16.9%で、東京都33.6%、全国31.1%に対して大幅に低いことから、基本的な四則計算のしくみについて理解し、説明できるための指導が必要である。</p> <p>○児童が自分の考えをまとめ、意欲的に表現・発表し、話し合うことができるようにするための工夫が必要である。</p> <p>○5年生までの学習内容をしっかり習得させ、既習事項を使って問題を解こうとする態度を育てる。</p>	<p>☆朝の会や学習の始めに四則計算の学習を行う。</p> <p>☆筋道を立てて考え、自分の考えを的確に記述する場面を増やす。</p> <p>○授業の中で、数直線や図形などをノートにかくことや、児童同士で説明し合うこと、お互いの考えを評価し合うことを習慣化する。</p> <p>○「速さ」や「分数の乗法、除法」などの単元で、全体と部分とを関係付けて考える場面を増やし、数直線や表を活用して問題を解決するようにする。</p>	<p>「☆」は、全国学力・学習状況調査の結果から分析した課題と改善計画</p> <p>○基本的な四則計算を間違えずにできるようにする。</p>
理科	<p>☆自然の現象を学習したことをもとに説明できるようにする必要がある。</p> <p>○理科の基礎知識や基礎学力が定着するように指導方法を工夫する必要がある。</p> <p>○実験を通して学んだことを整理し、知識として習得させるための指導の工夫をする。</p>	<p>☆実験観察等で分かったことを文章でまとめる活動を徹底する。</p> <p>○実験等を行う際、安全面の配慮や、より多くの児童が活発に関われるようにする。</p> <p>○ノートの使い方や指導し、自分の予想や実験の結果・考察をノートにしっかりとまとめさせることで理解の定着を図る。</p>	<p>「☆」は、全国学力・学習状況調査の結果から分析した課題と改善計画</p>
総合	<p>○課題設定を行う際、児童が興味・関心をもって自ら追究活動ができるように、指導方法を工夫する必要がある。</p>	<p>○児童が課題選定を行う際に、十分な資料や知識に触れさせたり、体験させたりして自ら追究したくなるような課題を設定させる。</p> <p>○学びのスタイル(課題をつくる・追究する・まとめる・広げる)を工夫し、確立を目指す。</p> <p>○コンピュータリテラシーの向上を図る。</p>	<p>○外部講師の活用</p>
外国語活動	<p>○すべての児童に自信をもたせ、積極的に活動させる工夫が必要である。</p> <p>○決められた会話を言うだけでなく、児童が自分で考えた内容で会話するように授業を計画する必要がある。</p>	<p>○児童が意欲的に外国語活動に取り組めるように、必ず発話しなければならない場の設定をし、相手との距離を意識しながら活動させる。</p> <p>○自分の思いや感想のやりとりができるよう、教室英語をさらに充実させるとともに、動作も付けさせて気持ちを伝えるようにさせる。</p>	<p>○ALTの活用</p>
音楽	<p>○曲想を大切に表現する力に課題があるため、表現することの喜びや楽しさを感じながら音楽を作っていけるように、教材提示や学習の進め方を工夫する必要がある。</p>	<p>○歌詞を読み深めたり、どのように表現していくか考えたりする中で、仲間と音楽を作り上げる喜びが感じられるようにする。</p> <p>○目指す表現をするために、姿勢、発声などの基礎基本を徹底し楽しく学習できるようにする。</p>	
図工	<p>○既習事項を活用してより自分なりの工夫や課題設定をしていく力が必要である。</p> <p>○造形的な特徴を基に自分なりのイメージを表す力を身につけさせる必要がある。</p>	<p>○活動の中で既習事項の確認、資料の活用を行い、児童が表現方法や技術を選択できるようにする。</p> <p>○表したいイメージを色や形の組み合わせ、質感といった造形的特徴と結びつけ、動きやバランス、方向感等も考え合わせながら、表したいものを効果的に表せるようにする。</p>	
家庭	<p>○生活の改善に主体的に関わるために、学習内容に対して意欲をもって取り組むことができる指導方法を工夫する必要がある。</p>	<p>○学習内容を自分自身の生活に照らし合わせながら、子どもたちに生活に対して、「工夫していきたい」という気持ちをもたせるようにする。</p>	<p>○保護者ボランティアの活用</p>
体育	<p>○児童が興味・関心・意欲をもって取り組むことができる指導方法を工夫する必要がある。</p> <p>○が自分たちで考えながら個人や集団の運動技能を高められるような授業の工夫が必要である。</p>	<p>○友達と協力して活動する場面を多く設定し、学び合いにより個々の技能を高めるだけでなく集団で活動し力を伸ばしていくことをねらった授業の展開をしていく。</p>	